

海外の大学アート・リソース事例①-1

Australian Ceramics Triennale 09
YOUNG GUNS Exhibition

齋藤 敏寿

筑波大学大学院人間総合科学研究科

平成21年4月27日シドニー大学 Sydney College of the Arts 以降 (SCA) 陶磁分野責任者 Jan Guy 先生 (以降 Jan 先生) から E-mail が届いた。内容は Jan 先生企画の展覧会に私の指導学生 2006~08 学群卒業生を紹介してほしいとの内容であった。きっかけは平成21年3月9日 SCA へ視察と調査を行った際に、Jan 先生に陶磁分野の施設等を案内して頂き交流を持ったことにつきる。(A.R.T. の構築 筑波大学平成20年度プレ戦略イニシアティブ報告書参照) 早速、博士前期課程芸術専攻2年生の佐藤ちさとと藤崎佐保里に Jan 先生からの E-mail と要求された、作品情報を SCA に送るように紹介した。この時には再び私がオーストラリアへ出張することなど考えも及ばなかった。私事だが、平成21年度の芸術専門学群と博士前期課程芸術専攻のカリキュラム委員長を拝命して、業務に集中していた為であった。また Jan 先生からの E-mail 内容も若い作家の作品を紹介したい主旨は理解できたが、Australian Ceramics Triennale 09 (以降 OCT09) との関係等の情報は全く無かった。しかし筑波大学卒業の学生作品を紹介できる場があるのならば位の軽い気持ちであった。それから約1ヶ月半後の6月7日に2人の学生の作品が YOUNG GUNS Exhibition に選ばれたとの連絡があり、この展覧会は OCT09 の関連企画展のひとつで、世界中の同年代の陶磁作家にエントリーを依頼し、参加国としてオーストラリア・アメリカ・イギリス・オーストリア・台湾・中国・韓国・日本のエントリー約150から37名選抜された栄誉あるものであった。選ばれた2人に作品の送付方法と送料等を調べて、依頼のあった7月10日までに作品を送る手配を依頼した。しかし日本からの作品送付 (特に陶磁、美術作品) の送付代金は、一点約20万から30万と非常に高額な見積もりと、税関等の手続きの複雑さに学生が「出品を取り下げないといけないかも」と相談されるまで深刻な状態になってしまった。そこで五十殿利治人間総合科学研究科長 (プレ線略責任者) 及び玉川信一芸術専門学群長に状況を相談した所、教員同行を条件に航空代金の支援を決断して頂き、学生も作品と共にシドニーへ行き、展覧会の調査と交流を業務として認められた。Jan 先生にも展覧会オープニング前日に作品が届けばいいとの回答もあり、渡航期間は7

月14日から19日と決定した。クラフト領域の宮原克人講師に同行をお願いしたが、急遽であった為都合がつかず私がやはり同行することとなった、会議を5個キャンセルしての渡航であり、大変迷惑を掛けたが、渡航出張を決断 (6月30日) してから、OCT09 を調べた際、私の陶磁専門研究の幅を広げてくれる非常に有意義な出張になると直感した。同行した2人の学生による報告にもあるが、私自身日本では見えない世界の陶磁作品事情や、OCT09 に参加した作家、各国の大学で陶磁を指導している教員との交流が、短い出張の期間であったにもかかわらず、充実した機会となったことにとっても感謝している。

OCT09 は平成21年7月16日から20日の5日間30回目の記念的な開催であった。メイン会場は、National Art School (NAS)、College of fine Arts (COFA)、シドニー大学 (SCA)、シドニー市内の画廊は OCT09 に合わせ世界の陶磁作品の紹介をしており大型バス2台での画廊回りツアーや、国際会議93企画、陶磁のデモンストレーションは30企画されており、参加国は、オーストラリア、アメリカ、イギリス、スウェーデン、オーストリア、ポーランド、パキスタン、韓国、台湾、中国、日本、陶磁専門家から、陶磁を学ぶ各国の学生、陶磁愛好家が参加していた。7月15日夜 NAS の Merran Esson 先生宅での OCT09 企画者、スタッフによるプレオープンパーティーではトリエンナーレを成功させようとの熱気に満ちており、各国の陶磁作家、評論家、キュレーター、Royal College of Art の安田タケシ先生、国立臺南芸術大学の張清淵先生、University of South Carolina Virginia Scotchie 先生等との交流は、国際会議、デモンストレーション等を期待させるに充分であった。日本の陶磁文化も世界にひけをとらない幅の広さと深さを持っているが、国の政策としての韓国、台湾、中国等の参加対応に比べての日本の貧弱さや、グローバル化への対応の遅れは否定できず、学生等の国際規模の展覧会参加に係わる経済的支援等を含め今回感じた陶磁文化に限らず多々ある課題は、今後私の研究課題に非常に大きな宿題を突きつけられた出張となった。